

※清水町ホームページ公開用に元データの一部を加工しています。

2025インターンシップ まとめ

●氏名 竹ノ内優

●インターンシップ先 清水町役場 様

1. インターンシップ カリキュラム (日毎)

8/18(月)

清水町概況説明、まほろば館・地域交流センター・柿田川公園視察、住民課窓口業務体験

8/19(火)

事務作業、庁舎内巡回（総務課）

8/20(水)

スポーツ施設巡回・修繕箇所の点検、レクスボ大会の名簿作成（健幸づくり課）

8/21(木)

介護予防教室に参加、レクスボ大会の名簿作成（健幸づくり課）

8/22(金)

議場・委員会室の見学、一般質問受付事務、議会運営委員会の準備（議会事務局）

2. ビジネスマodelで印象深かったこと

規模感

清水町役場は14の課と議会事務局の計15課で構成されており、職員数も比較的少ない小規模な組織である。そのため、大規模な自治体に比べて仕事が過度に細分化されず、一人ひとりの担当範囲が広く、さまざまな業務に関わることができる。そのことによって仕事の全体的な流れが分かる点が印象的だった。大規模な組織では業務が細分化されることで専門性を深められる一方、担当領域以外に関する知識が得にくく、業務の幅が限定される可能性があると聞いた。清水町役場は職員全員がジェネラリストの様な働き方をするような体制だと実感した。

また、規模の小ささは職場の雰囲気にも表れており、非常にアットホームな職場環境が築かれていた。同じ課の職員同士だけでなく、他課の職員とも顔見知りの関係が多く、日常的に円滑で和やかなコミュニケーションが行われていた。中には職員同士で住んでいる地区や家族構成まで把握しており、電話越しの声だけで相手を判別できるほどであると聞き、規模感ならではの人間関係の近さを強く感じた。

3. 提案したいビジネスプラン

最終発表会でプレゼンした内容のまとめでOK

Uターン応援制度

清水町出身の若者が進学や就職で町を離れても、結婚や子育てのタイミングで戻ってきたくなる仕組みを強化するべきだと考える。清水町が栄えるためには、方向性として、

観光より住民の生活の質向上であると考える。実際、「くらしやすさで未来をともにつくるまち・清水町」という将来未来都市像をもとに、すでに清水町にはくらしやすさの土台は築かれている。その土台を最大限に活かすためには、Uターン政策が効果的だと考える。ポイントは、新規移住者ではなく、清水町に縁のある人がまた戻ってくるという点である。清水町は知名度がまだ低いと感じる。そのため、新規で清水町について知つてもらうよりも実家や親戚とのつながりを生かした仕組みを作ることが良いと考える。

例) ターゲット：
・実家が清水町にある若者（大学生・新社会人）
→就職を機にUターン

・結婚や出産を機に清水町に戻りたい世代

内容：
・住宅補助、子育て支援金

→・清水町にUターンすることで、住宅や子育てのお金の不安を減らすことができる
・実家や親戚とのつながりを強みとして安心した暮らしを実現できる。

4. インターンシップ先で会った凄い人

総務課 Oさん

とにかくアンテナの高さに驚いた。一緒に文書を作成した際に、公文書の表現方法や決まりごとなど細かい部分についてきちんと確認しながら進めており、公文書のルールが書かれた分厚い本を取り出して一つひとつ調べていた。その真剣さに圧倒されると同時に、その本に付箋がたくさん貼られているのを見て、日頃から勉強を積み重ねていることが分かった。「次どこの課に異動になるかわからないからどの課に異動になっても対応できるように」と、自分の担当ではない知識まで学びに行く姿勢も持っていて、学び続けることを当たり前にしている姿勢にとても刺激を受けた。

さらに、人への向き合い方も丁寧で、文書作成の振り返りにはわざわざスライドを用意して説明してくださり、インターン生のためにここまでしてくださることに感動した。

企画課 Aさん

Aさんは、役場のホームページの管理やドローンを使った上空映像の撮影や操作、さらに動画編集までこなしていて、本当に多方面で活躍されていた。1週間を通して見ていると、多くの職員が多く仕事を抱え、常に忙しそうな印象を受けたが、Aさんは向上心を持って新しいことに挑戦し、それを実際の仕事に生かしている姿勢に刺激を受けた。新しいアイディアを思いついても、それを形にするのは簡単ではないが、Aさんはそれをしっかりと発信し、形にしていて本当にすごいと思った。Aさんの姿を見て、自分も考えやアイディアを積極的に発信し実現させることのできる大人になりたいと感じた。

5. インターンシップを通して学んだこと

今回のインターンシップでは、「公務員という仕事」と「清水町役場で働くこと」という2つの視点を意識しながら学ばせていただいた。

まず、公務員という仕事については、「確認」「こなす」といった作業が多く、想像以

上に細かい部分まで注意を払う必要があることを知った。税金を使う立場だからこそ、自由に動くのではなく、住民に誤解を与えないように正確さを大事にしている。そのような仕事内容の中で、公務員の仕事のやりがいは、「安定」や「福利厚生」に重きを置いていていると考える職員が多くいた。

次に、清水町役場で働くことについては、規模の小ささが大きな特徴だと思った。業務内容は広く浅く担当する、職員全員がジェネラリストのような働き方が特徴的で、職員の方もその働き方をポジティブにとらえている方が多かった。また、小規模だからこそ職員同士の距離が近く、課を越えて声を掛け合う姿が印象的だった。仕事のやりがいは業務そのものからだけでなく、「誰と働くか」「どんな人と一緒にいるか」といった人との関わりから生まれているのではないかと感じた。

職員の方が日頃から行っている業務を実際に体験させていただいたことで、清水町役場の魅力だけでなく、公務員という働き方の大変さや堅実さを肌で感じることができた。将来公務員を志望している私にとって、今回の経験は「公務員という仕事」そのものへの理解を深めると同時に、「どの自治体で働くか」を考える大切なヒントとなった。